

若宮 功三 (P,Key) 兵庫県出身

デビット・サンボーン、ランディー・ブレッカー、スティーブ・ガット、ウィル・リー、ジニス・シーゲル(マンハッタントランスファー)、シーラ・レイチャールズ、ミンガスオーケストラなど、その他数々の全米を代表するミュージシャンとのアルバム制作。国内では、阿川泰子、麻丘めぐみ、尾崎紀世彦、森口博子などコンサートツアーのアレンジ&ピアノ、その他、上田正樹、五輪真弓、西城秀樹、研ナオコ、TARAKO、門倉有希、小椋佳、ペドロ&カプリシャス、などのアーティストの音楽活動をサポート。数々のプロデュースやアルバム制作、演奏、ライブハウス等に出演する。

江上 友彦 (B) 神奈川県出身

幼少の頃からクラシックピアノを始め、高校時代にエレキベースに出会い大学入学後にジャズ研でウッドベースを始め演奏活動始める。ベーシスト坂井紅介氏に師事。また作曲家、アレンジャー、ピアニストとしての一面も持つ。2012年11月よりオリジナル曲だけのリーダーバンド『IMAGE←』の活動を開始。2018年7月に自身の2ndアルバム『Image of Sound』をリリース。オリジナリティーに溢れた曲作りにも力を注いでいる。ジャズセッション、ポップスグループのサポート他、都内、横浜のライブハウス等で活動中。

吉田 和雄 (Dr,Cho) 埼玉県出身

子供のころから地元のまつりに親しみ、囃子を学ぶ。高校時代に「ボサノヴァ・ブーム」が到来、そのリズムに魅せられて大学在学中にドラムを学んだ。ブラジル音楽に傾倒した「Spick & Span」を結成し、11枚のアルバムをリリース。プロデューサーとしては、ボサノヴァシンガーの小野リサを世に送り出し、南佳孝やブラジルのスター、ジョイス、カルロス・リラ等も手掛ける。まさにブラジルと日本の架け橋的存在で、73回の渡伯経験を持つ。2018年、日本人では初めて、ブルーノート・リオに出演。

現在、「トキオ・ボッサ・トリオ」、「パンドラム」を主宰、新作アルバムを発表。

越田 太郎丸 (G,Cho) 東京都出身

ボサノバとクラブミュージックを融合させたユニット『Prismatica』のギタリストとして1997年にCDデビューベスト盤を含む7枚のアルバムをリリース。アントニオ・カルロス・ジョビン、トニーニョ・オルタ、ジョアン・ボスコ、などブラジルのアーティストから影響を受けブラジル音楽を軸に演奏活動を展開。石丸幹二、葉加瀬太郎、Jazztronik、coba、様々なアーティストのライブサポートやレコーディングに参加。ピアニスト榎原大とのデュオ『男子二楽坊』やピアソラ作品をピアソラスタイルで演奏する。

2018年にガットギター独奏によるアルバム”Twenty Years”をリリース。

羽根淵 道広 (Sax,Fl) 東京都出身

明治大学入学後、ジャズ研究会に入部。チャーリー・パーカーの演奏に衝撃を受け Alto Sax を始める。ハンク・モブレイ、スタン・ゲッツ、ジョー・ロヴァーノなどの影響も受け Tenor Sax に転向。2003年、オリジナル曲を中心に自己のグループを結成。2004年、つくばビッグバンドコンテストで YAMAHA 賞 最優秀ソリスト賞を受賞。2010年、馬場孝喜(ac.gt)との Duo、”habanero”を結成。Jazz,Soul,R&B, Bossa, Brazil などの幅広い音楽性とアコースティックな響きで聴く者を魅了する。また、和田アキ子、谷村有美、宮本信子をはじめ、様々なアーティストのライブ、レコーディングサポートメンバーで活動中。